

もくぞうげったんそうこうざ ぞう
85. 木造月菴宗光坐像

■ 指定日

昭和55年3月31日

■ 種別

有形文化財 彫刻

■ 年代

江戸時代

■ 所在地

朝来市山東町早田

■ 所有者

大同寺



■ 内容

開山堂本尊(釈迦三尊)の向かって左に、木造達磨大師坐像、右に月菴像が安置されている。禅定印を結び、眼をはっきり開いて前方を直視し、見事な曲糸に端坐して法衣を垂下する。下には台上に僧靴が揃えられている。平素は帽子を冠してある。晩年を描いたと思われる大明寺や円通寺の頂相(画)とは相貌の異なる感もあるが、高僧であった彼の姿を偲ぶことのできる彫像である。

作者は不詳だが、頸部内側に墨書銘がみえる。『大同寺文書』によれば「天明六丙午(1786)京師の仏工に命じて再興粧嚴、古を輝し今を照せり」とあり、補修されたことは明確である。その後一部が剥落しているが、月菴の当地域における偉大な足跡を知る貴重な坐像である。